

時代に足跡を記(しる)した大先輩・その2

日本プロレタリア文学の祖
金子 洋文 (かねこ ようぶん)

プロレタリア文学作家小林多喜二が1929年に発表した「蟹工船」が、2008年頃、当時の閉塞感の漂う世相を反映し若者の間で、再評価されましたが、日本プロレタリア文学の祖といわれる「種時く人」を発刊した一人で、1913年(大正2年)秋工機械科を卒業した金子洋文の足跡をたどってみました。

筆者は、昭和39年9月25日秋工2年の時、秋田県民会館で開催された秋工創立60周年記念式典で、金子洋文の記念講演を聴き、当時70才と思われる洋文の館内に朗々と響いた声の記憶が残っています。

<金子洋文 年譜>

- 1894年(明治27年) 4月8日秋田市土崎古川町の舟問屋の4男として生まれる
- 1913年(大正2年) 秋田工業学校機械科卒業
- 1913年(大正2年) 秋田工助手を経て母校土崎小学校の代用教員となる
- 1916年(大正5年) 上京し武者小路実篤の書生となる
- 1921年(大正10年) 小牧近江、今野賢三と社会主義思想の文芸雑誌「種時く人」を土崎で創刊
- 1923年(大正12年) 「解放」に発表した「地獄」が出世作となる
- 1924年(大正13年)～「種時く人」の後継誌「文芸戦線」を創刊。戯曲、脚本も書いた。
- 1947年(昭和22年) 社会党の参議院議員(全国区)を一期務めた
- 商業演劇の脚本家となり、松竹歌舞伎審議会専門委員、また「劇と評論」編集委員
- 1985年(昭和60年) 3月21日没(90才)

<洋文の文学的出発>

秋田聖霊女子短大教授(後に秋田市立中央図書館明徳館の館長)だった北条常久氏の論文によると、洋文は明治42年東京の山本電當舎に就職するが、その後秋工機械科に入学し、大正2年3月に卒業。秋工助手の後、母校土崎小学校の代用教員になります。

洋文の文学的目覚めは、文壇に当選し文学的才能のあった兄の長吉に感化されたようです。教員時代に、秋田を訪れた歌人などから影響を受け、大正5年再度上京し「日本評論」の一元社に入社します。大正6年千葉県我孫子の武者小路実篤宅に寄宿し、白樺派に影響を受けたことが文学的出発となったようです。当時23歳の洋文の写真が武者小路実篤、志賀直哉とともに「白樺文学館」のホーム・ページに載っています。

<種時く人>



「種時く人」は、1921年(大正10年)、小牧近江が出身地の土崎小学校時代の友人、今野賢三、金子洋文らと土崎で第一次3冊を発行した雑誌。翌年、東京版を発行し、青野季吉・平林初之輔らも参加した。小牧がフランス滞在中に参加したバルビュスの提唱した反戦運動＝クラルテ運動の種を日本で蒔くと言う趣旨に基づく。スローガンに「行動と批判」を掲げ、ロシア革命救援、非軍国主義、国際主義などを基調に様々な特集を組んだ。1923年、関東大震災により廃刊(第二次通巻21冊)したが、終刊号と別冊「種時き雑記」で震災時の亀戸事件での朝鮮人・社会主義者への虐殺に強く抗議した。「文芸戦線」はこれに後続するものとされる。(Wikipediaより)

種時く人の表紙にはミレーの「種時く人」をあしらい、その横に「自分は農夫のなかの農夫だ。自分の綱領は 労働である」とあります。ミレーの「種時く人」は岩波書店のマークにも使われています。

<政治家としての洋文>

当時、鉱山業の盛んであった秋田県の鉱山労働者や小作農民(無産階級といわれた)の争議が続き社会主義運動が高まっていた。

洋文は昭和5年、普通総選挙で秋田無産党から立候補しましたがこのときは大差で落選しました。

53才の戦後1947年(昭和22年)第一回参議院選挙で社会党全国区から出て当選しました。昭和24年11月29日 第6回(臨時)国会 参議院本会議でユネスコ決議が採択されこのときの洋文は賛成の発言をしました。

1953年1月31日参議院で発言。社会党議員として吉田内閣の軍備拡張と平和憲法改正について、反対を唱え、吉田内閣の退陣を求めました。この年3月14日に吉田内閣は、所謂「バカヤロー解散」をしました。

59歳のとき、それまでの歩みをたたえられ、洋文は秋田市特別功労賞や、秋田魁新報社文化賞を受けました。

「種時く人」を発刊し、小説家、戯曲家、演出家として芸術の発展につ



くした洋文は、90歳で亡くなりました。

洋文の17回忌である平成13年には、土崎で洋文をしのぶ会が開かれ、秋田市立土崎図書館の玄関前には「種時く人」のレリーフがあります。

●参考資料(北条常久氏論文、土崎図書館サイト)

◆ 記事

赤川 均 昭和41年電気科卒
会報「金砂」副編集長

K.F.'s Design Gallery

服飾、建築、自動車、のデザイン以外であれば、何でもOK……、
とは言うものの、私のベースワークはやはり、工業デザインである。
それも、どちらかと言えば、地味な分野とでも言った方がいいか、
工業機械・装置、住宅関連設備等々……。
デザインは広く認知されるようになってはいるが、こうした分野では、
まだまだの感が強い……。

プロダクトプランナー&デザイナー 船木 一美
(昭和48年機械科卒)

P&D_KFworks 埼玉県新座市野寺5-6-20 〒352-0034
携帯.090-3049-7291
プランニング&デザイン_ケーエフ_ワークス E-mail kf-works@sea.plala.or.jp

Industrial Design

Design work of K. Tsukaki

